




● 実りの秋 maki textile studio

菜の花  暮らしの道具店

2019年10月5日・土 — 10月14日・月祝

Open 10:00 — 20:00 / 会期中無休

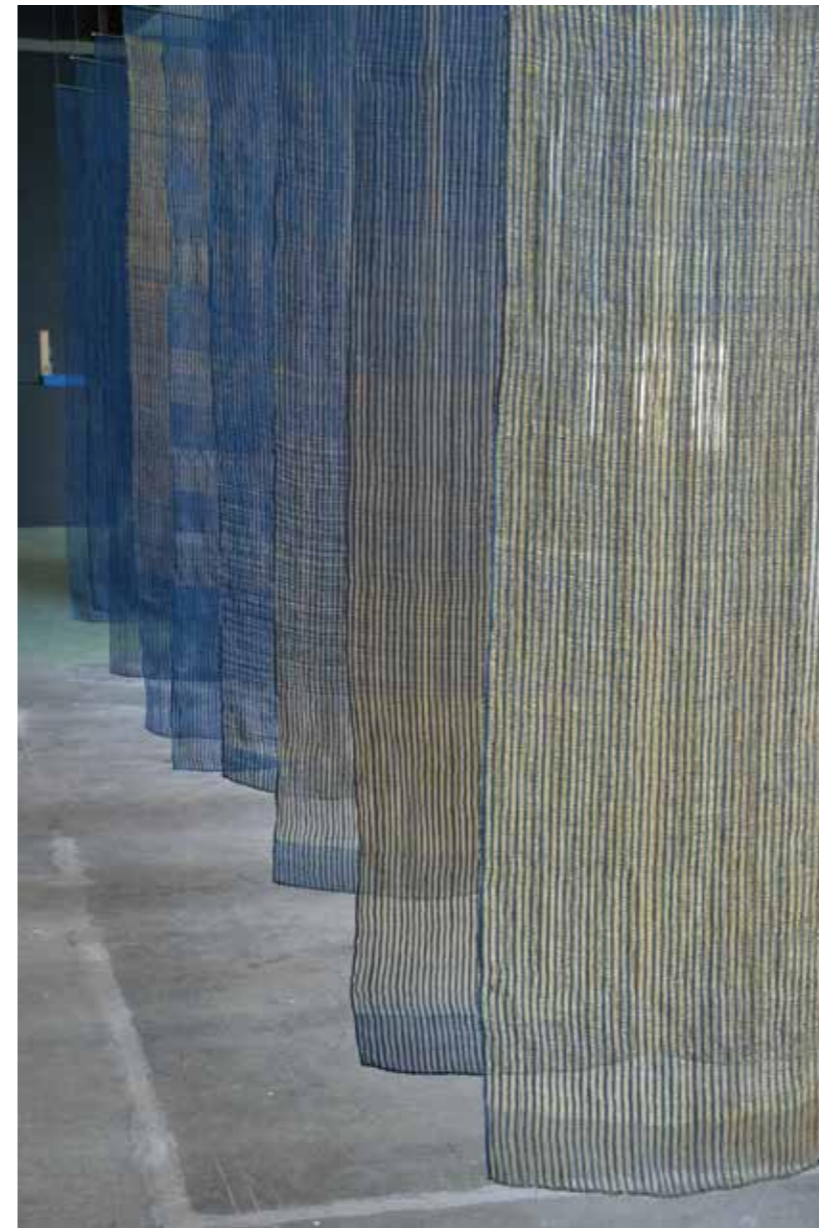
箱根菜の花展示室 **同日開催**

この秋の真木さんのフェアは、特別な企画です。
箱根菜の花展示室と、菜の花暮らしの道具店の2会場で、
真木さんがインドでの新たに取り組んでいる美しい大小の布と、
maki textile studioの、秋から冬へ向かう衣服、二つの世界をお届けします
～長い雨季も終わり、10月はヒマラヤ山麓もとても気持ちの良い季節を迎えます。
季節が巡り、その歩みとともに新たな想いも添えて、布が生まれます。
今秋も暖かく風合いのある手織布、衣が出来上がりました。
二重織りのバストラル服生地は、布そのものを纏う風合い。
定番の台形腰巻きはカラフルに。懐かしいデザインのストールもいろいろ。
素材を感じる秋布をお楽しみください。


菜の花  暮らしの道具店

神奈川県小田原市茶町1-1-7
小田原駅東口 地下街 HaRuNe 小田原
TEL 0465-22-2923 営業時間 10:00 ~ 20:00
http://kurashinodouguten.com

 nanohana_douguten



● 真木千秋系から生まれる世界

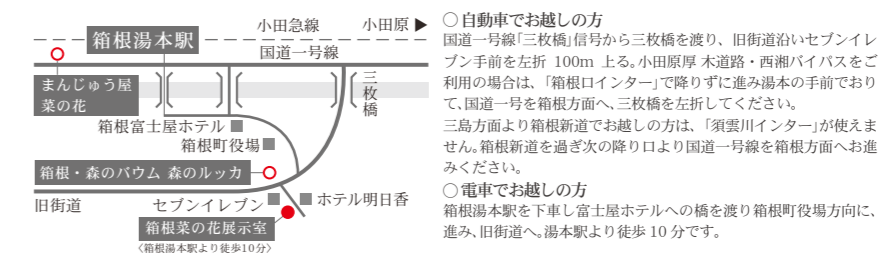
 箱根菜の花展示室

2019年10月5日・土 — 10月14日・月祝

Open 11:00 — 17:00 / 定休日 9日

作家在廊日 5日、6日

菜の花暮らしの道具店 **同日開催**



〒250-0311 神奈川県足柄下郡箱根町湯本351-2

Tel.0460-83-8166

http://tenji.nanohana.co/ [休館時連絡先] 菜の花暮らしの道具店 Tel.0465-22-2923



ゆうメール



●箱根菜の花展示室にて

① 真木千秋さんお話し会
10月5日(土) 13:00-14:00
布の展示を前に、真木さんに新しい取り組みについてお話を伺います。
スペシャルゲスト 石垣昭子さん、真砂三千代さん
参加費/500円

●菜の花暮らしの道具店にて

② 真木テキスタイル スタジオの田中ばるばさんによる
デジタル紙芝居と真木千秋さんのお話
10月5日(土) 16:00-17:00
インドのganga maki工房での制作風景などのお話映像会です。
映像を見たあと、真木さんにお聞きになりたいことなどをお話し下さい。
参加費/1,200円(コーヒーとお菓子付)

①②とも、お申込みお問い合わせは…

菜の花暮らしの道具店(0465-22-2923)までお願い致します。

気がついたら織物づくりをはじめから30年もの月日が過ぎていました。
アメリカの美術大学では自己表現を追求し、自分の中にある日本という国で生まれ育ったことで培った
素材や色への繊細さ、また自然の力と美しさに惹かれ続けていることも感じました。

卒業後は、手紡ぎの布を求めて海外や日本の各地を訪ねました。暮らしの中で生まれた染め織りの美しさ、
たとえばアフリカの織物や、アジアや中南米の国々で、名も無い織り手が生まれてくる子供のために織った
布などに、何よりも魅了されました。
染め織りは暮らしの中から生まれてこそ美しく、人をも守るものになるのだと考えました。自分を力強く
優しく包んでくれるような織物をつくりたいと、毎日つくり続けてきました。世界の染め織りがまだ暮らし
の中に残っているところ…と歩いているうちに立ち止まったのがここインドでした。
手の仕事が当たり前のように暮らしにある、手から学ぶ知恵…何度もどってきても今でもまだ学ぶことが
日々あります。

約10年前に仲間達と、それまでのデリーから北インドのヒマラヤの麓ウタラカンド、リシケシの山里に
来ました。自然素材だけで全て手作業で工房作りを始めたのです。そして、4年半の月日をかけて、3年前に
ganga maki 工房が出来上がりました。建物を作るのと同時に、畑を耕し、たくさんの染料植物を植えて、
今では収穫に忙しくなりました。
工房では手つむぎを中心とする絹、麻、木綿、ウール、苧麻や芭蕉…いろいろな繊維を使っていますが、
地元で育つ繭から手でずり出す糸づくりも最近では毎日の仕事になり、苧麻や芭蕉も糸にすることができる
ようになりました。工房で収穫するインド夜光木、インド藍、ヘナなど自然の色で染め、独自の織物を作
っています。

工房の設計をし、何年も工房づくりを共にした、スタジオムンバイの建築家のBIJOY JAINが、出来上がった
後に言いました。
「とにかく好きなことをおもしろいやり続けてほしい。」

その言葉で私はハッとしました。そうだ、使うという強度や用途を考えず、絵を描くように一枚一枚違う
織物を作ってみよう。糸の素性を感じ、糸と糸が織り重なり、できるだけなりたい形になるように、と思い
ました。

さて、と手に取った糸は、やはり繭から手でずり出した、一本一本違うごつごつした表情豊かな糸でした。
昔から手で紡がれ続けてきた野生のタッサークルが一番太い糸など大好きな糸を自由につかって
みました。

そんな時にちょうど菜の花の高橋台一さんから菜の花展示室で展示をしないかというお声がかかり、
なんだか不思議なほどタイミングがよく、展示させていただけることになり本当に嬉しく思っています。

インド、リシケシにて、 真木千秋より

僕もちょうどオープン頃にインドのganga工房を訪ねて、布を生む新しい共同体が生まれているんだな
と、肌で感じた。一本の糸から生まれる摩訶不思議な世界である。
今回、長さ3メートル以上の布や、裂き織りの大きな布など、日本国内では初めての発表となります。
ぜひ多くの方に見て頂きたい。販売しますので、その布を生かして使っていただければと思います。
同時開催にて小田原駅地下街にある、菜の花暮らしの道具店では、真木テキスタイルスタジオのストール
や、衣服を展示、販売します。

2019年9月13日十五夜に ●高橋台一